

Focus
1

産学官金連携による事業化などを見据え、 埼玉大学先端産業国際ラボラトリー発足

Vol. 8
August
2016

先端産業国際ラボラトリー（先端ラボ）は、産学官金連携による研究・開発協働、事業化等を見据え、融合科学研究科（仮称）と産業界・地域社会インターフェイスとして、共創型ワークショップや先端産業インキュベーションを実現するために平成28年4月に設置され、先端産業分野別に「ヘルスケア・イノベーション研究ユニット」と「メディカル・イノベーション研究ユニット」の2つの研究ユニットを設置しています。今回、各ユニット初となるワークショップとセミナーを開催しました。ヘルスケア・イノベーション研究ユニットが6月17日にワークショップを、メディカル・イノベーション研究ユニットが7月13日にセミナーを開催し、それぞれ企業、自治体、大学関係者など80名を超える参加を得ました。ワークショップでは、佐藤研究・産学官担当理事が挨拶、次いで綿貫先端ラボ所長が先端ラボの概要及び取り組みについて説明し、「企業と大学の研究室が1対1で共同研究するだけではなく、大学が核になり複数の企業をコーディネートし、先端産業インキュベーション・スペースで異業種連携や新分野展開支援を行いながら、製品の



企画、研究開発、製造、実用化を一環して取り組み、共創の場における人材育成や新たな事業化を目指していきたい。また、ここからイノベーションを起こし、地域貢献をしたい。」と話しました。後半には、各ユニットに関連する企業等関係者がプレゼンテーションを行いました。ヘルスケア・イノベーション研究ユニットでは、アスリートや高齢者の筋力を測定し、能力や健康状態を向上させる医療機器開発やスポーツの後に疲労を回復させるリカバリウェアの市場を創造することなどの事例発表がありました。一方、メディカル・イノベーション研究ユニットでは、次世代抗体の医療分野への応用、開発手法、効率的な生産、磁気ビーズによる精製等及び埼玉先端産業創造プロジェクトでの取り組みについて説明があり、両会合とも参加者から多数の質問があり、取り組みへの関心の高さが伺えました。



佐藤研究・産学官担当理事



綿貫先端ラボ所長

Focus
2

埼玉りそな銀行による寄附講義 「現代銀行経営論」を開講



6月15日、埼玉りそな銀行の寄附講義「現代銀行経営論」（全14回）の初回講義が行われ、同銀行の池田一義社長が、学部生1～4年生約80人に金融と金融サービス業について講義しました。この寄附講義は、本学と同銀行の協定に基づく取り組みとして2008年度から毎年開講され、今回で9回目を迎えました。地域経済・社会における

「地域金融機関」の果たす役割への理解を深め、将来の地域経済を担う人材の育成を目的として、全学部の学生を対象に実施されています。池田社長は、「金融サービス業とは」と題し、社会における銀行の役割、地域に根ざした金融機関に期待される役割のほか、アベノミクスやマイナス金利の導入など、日本経済を取り巻く状況について説明しました。また、銀行の価値について「従来は資金量だったが、これからは顧客満足など社会的付加価値が重要になる」と述べ、「金融業から金融サービス業へ変化していかなければならない」と話しました。講義を聴いた学生からは「人工知能は将来、銀行の仕事にどの程度導入されるのか」「マイナス金利が銀行に与える影響」といった質問があり、池田社長が丁寧に回答されました。この寄附講義は、全14回にわたって開講され、7月27日の最終講義には、学生が「お店に行きたいと思う店頭サービス」や「利用したいと思うネットサービス」について池田社長に提言を行いました。

Focus
3

埼玉大学産学官連携協議会で 県内企業関係者と交流

6月6日、埼玉大学産学官連携協議会は、大宮ソニックシティ市民ホールで、第17回定期総会（第1部）、産学官連携事例発表（第2部）及び交流会（第3部）を170名の県内企業関係者と本学教員等の参加を得て開催しました。同協議会は、平成12年に、埼玉大学と県内経済団体が設立発起人となり、県内企業等と埼玉大学の研究を有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的に設立されました。定期総会では、はじめに山縣秀司会長より挨拶があり、次いで山田正人関東経済産業局地域経済部長、渡辺充埼玉県産業労働部参事兼副部長、井上政行さいたま市経済局長、山口宏樹埼玉大学長から祝辞があり、平成27年度事業報告、平成28年度事業計画案などについて報告、協議を行いました。続いて行われた産学官連携事例発表では、埼玉県産業労働部の高橋利男先端産業課長より「埼玉先端産業創造プロジェクトについて」と題した講演、大学院理工学研究科坂井貴文教授から、「ホルモンの力で健やか生活」—脳と体は支え合っている—と



題しての講演が行われました。次いで、同研究科本間俊司准教授による「コンピュータで見る界面の運動」、小室孝准教授による「拡張現実感（AR）を用いたユーザーインターフェース」と題して、研究事例紹介が行われました。

◀山縣秀司会長

Focus 4 埼玉大生が
「参院選立候補者公開討論会」を主催

6月20日、本学社会調査研究センターは大学生による「参院選立候補者公開討論会」を開催しました。参院選で18歳選挙権が初導入されることから、若者の関心を高めようと同センター長松本正生教授のゼミ生が企画しました。当日は高校生、本学学生ら約200人が参院選立候補予定者の主張に耳を傾けました。各予定者による自己紹介の後、主催学生が投げかけた「若者向け政策」「安全保障政策」について意見を交わし、後半には、会場からも質問が集められ、「若者の政治的な無関心は何が原因か」等の質問について、各予定者が意見を交わしました。最後に、主催学生から期日前投票・不在者投票について説明し、過去の統計から「若者の投票者数が3倍になれば60歳代の投票者数を超える



るので、3人に声かけをして投票に行きましょう」と会場に呼びかけました。

Focus 7 梶田隆章先生による
埼玉県民に向けた講演会開催

5月8日、梶田隆章先生（'81年理学部物理学科卒業）の特別講演会を、市民会館おおみやにて開催。講演会は埼玉県、彩の国さいたま魅力づくり推進協議会、埼玉大学が主催し、1,000人を超える県民の方々が会場を訪れました。「ニュートリノの質量の発見」と題した講演では、「これまでの経験を通して、科学研究の面白さを伝えていきたい。そして科学研究を目指す人が増えること嬉しい」とメッセージが送られ、続いて行われた梶田先生と本学大学院理工学研究科佐藤丈准教授とのトークセッションでは、人類が知らなかったことを知ることができるといった科学の醍醐味など、経験を交えた先生方のトークが繰り広げられました。



Focus 10 「学長室を絵画で和やかに」
学生に感謝状の贈呈

「部屋に学生が描いた絵を飾りたい」山口宏樹学長の想いに本学学生が応え、その力作をお借りして学長執務室と学長応接室に飾っています。今年は、大学院教育学研究科2年の永澤元裕さんと實川夏紀さんが学長の想いに応えてくれ、4月11日に指導教員である吉岡正人教授とともに学長応接室に招き、両学生の厚意に対して学長から感謝状が贈呈されました。その後の歓談では、学長が中・高校時代に美術部に所属していたこともあり、油絵を始めたきっかけや作品のタイトルはどのように付けるのかなど、美術談議に花が咲きました。学長執務室に飾られた永澤さんの作品と、学長応接室に飾られた實川さんの作品は、学長をはじめ、訪れる方々の心を和ませてくれます。



永澤元裕さん「影が鳴く街」



實川夏紀さん「あなたがわたしをだめにする」

Focus 5 「さいたまトリエンナーレ 2016」
アーティストによるワークショップを開催

この秋、さいたま市で開催される国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ 2016」との連携授業「造形芸術学特論」（教育学部石上城行准教授）に、芸術祭参加アーティストの長島雄氏をお招きし、5月26日と6月2日の2日間にわたりワークショップを行いました。この芸術祭では、市民の方々に自由な素材を使って自宅や店舗の敷地内に芸術祭の会場を指すような「ヤジルシ」を作成・設置してもらうことで、市民が芸術祭に参加する場を作り出すプロジェクトを計画しており、この創作実験を授業で行いました。授業では、学生が創作したヤジルシを回り、よく目を凝らさなければ見つけられない工夫に満ちていて、作者の話聞きながら探していくプロセスは学生にとって刺激的なものになりました。



▲赤錆タングのヤジルシ

Focus 8 大学院教育学研究科
教職大学院を開設

平成28年4月より大学院教育学研究科に専門職学位課程(教職大学院)を開設しました。教職大学院は、「教育実践力高度化コース」と「発達臨床支援高度化コース」の2コースからなる「教職実践専攻」とし、研究者教員と実務家教員(学校現場の経験が豊富な教員)の共同による、理論と実践の融合型カリキュラムを特徴としています。新しい学校づくりを担う新人教員とその中核となる現職教員の養成を基本とし、社会の変化とともに学び続け、学校が直面する諸課題の構造的・総合的な理解に立って幅広く指導性を発揮し、教員集団の中核として活躍する実践的探求力と課題解決力をもった教員を養成することを目指しています。



Focus 6 大学院理工学研究科が水資源機構
総合技術センターと協定締結

大学院理工学研究科は、独立行政法人水資源機構総合技術センターとの間で包括的な連携推進に関する協定を6月14日に締結しました。同協定は、双方の資源を有効に活用し、研究・教育等、相互協力が可能な分野における連携を推進する事により、研究成果の普及・社会活用を促進するとともに、先端的な技術力かつ広い視野を有する研究者や高度技術者の育成に資することを目的としています。これまでも双方間において、ダムや貯水池の運用に関する技術協力や共同研究などが行われてきましたが、協定の締結により組織的な協力関係を深め、人材育成を含め幅広く連携を進めていきます。



Focus 9 教育学部附属
特別支援教育臨床研究センターを開設

6月8日、埼玉大学教育学部は、教育学部附属特別支援教育臨床研究センター開設記念式典を同センター(教育学部附属特別支援学校敷地内に併設)で開催しました。同センターは、平成16年に附属特別支援学校(当時、養護学校)内に設置された発達支援相談室「しいのみ」の発展、充実、そして更なる地域への貢献を目指して、教育学部附属の特別支援教育臨床研究センターとして新築された建物へ移転し、新たにスタートしました。また、同センターは、本年度開設された教職大学院における院生の教育・研究の場としても活用されます。



Focus 12 学生が
駐日欧州連合代表部を訪問

6月23日、教養学部開設科目「International Development Policy and Management」(加藤基客員教授)の一環として、学生12名が駐日欧州連合(EU)代表部を訪問しました。この科目は、英語で開講されている授業の1つで、日本と世界との結びつきを担い、第一線で活躍する方を毎回講師に招き、講義や意見交換を通じてグローバルな問題を理解し、視野を拡げ、自分の意見を形成することを目的としています。当日は、広報部学術EU大学教育担当者より、EUの歴史的背景、諸活動、英国のEU離脱問題などの説明がありました。参加した学生からは、「時事問題に関する解説が聞け、ニュースの見方も変わってくる。」などの感想があり、学内だけでは得ることのできない体験をした一日となりました。



Focus 11 「企業から見た大学のイメージ調査」
総合ランキングで14位に!

日本経済新聞社と日経HRより発表された、上場企業の人事担当者を対象に行った「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」の総合ランキングにおいて、本学は14位(398校中)にランクインしました。これは全上場企業3,624社を対象に、2014年4月~16年3月にかけて調査され、うち591社から回答を得たものです。企業は新卒正社員として採用実績のある上位10大学を挙げ、「学生のイメージ」と「大学の取り組みのイメージ」について回答。本学は、「対人力」で5位、「知力・学力」で18位、「独創性」で20位と複数項目で上位ランクインし、それら項目の合計値「総合ランキング」において14位と良い評価をいただきました。



Focus 13 台日大学学長フォーラム・日独学長シンポジウム・日仏高等教育改革シンポジウムに山口宏樹学長が参加

5月12日、第1回台日大学学長フォーラムが国立成功大学(台湾)にて開催されました。テーマは「グローバル化時代における台日の大学の挑戦」。両国からの基調講演、グローバル化に対応した大学の戦略等討議がなされ、互いの高等教育の現況と学術教育交流の可能性について共通認識が形成されました。一方、6月28-29日、ベルリンにて日独学長シンポジウム(日独シンポ)が、7月1日、パリにて日仏高等教育改革シンポジウム(日仏シンポ)が開催されました。日独シンポでは「教育、研究、イノベーション: 大学がみずから抱く学問の本質的価値と社会からの要請の狭間における高等教育」をテーマに、山口学長は「Social and Technical Innovation and Societal Impact in the

Context of Engineering Sciences - In the case of Saitama Univ., a mid-sized national university -」の発表を行いました。日仏シンポでは高等教育におけるイノベーション等活発な討議がなされ、前日には主催者(国立大学協会・フランス大学長会議共催)との Follow up meeting に山口学長も出席して、今後の日仏間の交流の可能性について議論がなされました。



Focus 14 ラオス国立大学を訪問 大学間交流協定の実質的合意へ

5月3日、大学院人文社会科学研究科田口博之教授、大学院理工学研究科睦好宏史教授らがラオス国立大学を訪問し、同大学長の Soukkongseng Saignaleuth 教授と面談し、両大学間で交流を行うことに実質的に合意しました。併せて、奨学金制度を活用した留学生(大学院)の受入れ、埼玉大学におけるワークショップ開催を含む具体的な交流のあり方について、意見交換を行いました。睦好教授からは工学部学生を対象に「我が国のコンクリート橋の最新の技術」をテーマに、田口教授からは経済経営学部学生を対象に「中所得国の罨及びオランダ病回避の道」をテーマに、それぞれ講演を行い、多数の参加を得ました。



Focus 15 タイ・チュラーロンコーン大学の学生グループが経済学部を訪問

5月24日、チュラーロンコーン大学経済学部生7名が、同学部副学部長のシリマー准教授の引率の下、本学経済学部を訪問し、研究機構 盧晟喆(ノーンソyncholl)助教によるヒューマン・リソース・マネジメントの特別講義を受講しました。講義後、本学経済学部生とともに、昼食と川越市内を観光し、学生交流を深めました。同大学はタイ王国の名門大学で、1997年に部局間(経済学部)、2002年に大学間交流協定を締結。本学からも経済学部生が、学部専門科目の一環で同大学を訪問し、作成した英文論文の討論や視察調査などを行っており、今後も学部間の交流を続けていく予定です。



Focus 16 トビタテ! 留学 JAPAN 第1期生西村晋平さんからのメッセージ 第5期生には東郷祥大さんと柳谷直治さんが採用される!

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム～」は学生の実践的な学びを焦点に、自然科学系分野、複合・融合分野における留学や、新興国への留学、諸外国のトップレベルの大学などに留学する学生を支援するもので、各領域でリーダーシップを発揮する多様な人材を支援し、海外留学の機運を高めることを目的としています。第1期生として台湾へ留学した理工学研究科の修了生 西村晋平さんが、同プログラムのホームページに取り上げられました。西村さんは、本学初のダブル・ディグリー・プログラム学生として、2016年1月には国立交通大学の修士号を、同年3月には本学の修士号を取得し、トビタテ生として大きな成果を挙げました。留学経験が就職活動に与える影響について、「留学中に挑戦

した経験、身に付けた思考など、評価いただける強みが増えたと感じた。」とし、「就職活動において留学は必ずプラスになる経験です。」と後輩へアドバイスがありました。また、6月17日には、第5期生として大学院理工学研究科1年の東郷祥大さん、経済学部2年の柳谷直治さんの2名が採用になりました。今後、一人でも多くの埼玉大生が世界へ「トビタテ」るよう、留学にチャレンジしていくことが期待されます。



西村晋平さん(右)

Focus 17 環境科学・社会基盤国際プログラム 留学生歓迎パーティー開催

5月27日、環境科学・社会基盤国際プログラム(社会基盤創生コース)に入学した留学生の歓迎パーティーを開催しました。同プログラムは、文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の事業として採択されたものであり、大学院理工学研究科において、平成18年度より毎年留学生を受け入れ、今日、187名の修了生に学位を授与しています。今回の歓迎パーティーは、平成27年10月と平成28年4月に入学したアジア、中東、アフリカの16か国32名の新入生のほか、在学留学生、日本人チューター、教職員を含む総勢68名が参加し、新入生が自国の写真を交えて自己紹介するなど互いの親睦を深めました。



Focus 18 メキシコ国立自治大学と合同フォーラムを開催

3月4日、埼玉県とメキシコ州の姉妹都市関係、日墨学長会議から発展した本学協定校メキシコ国立自治大学(UNAM)との学術協力関係の深化を目的とし、合同フォーラムを実施しました。はじめに、イヴァン・オルテガ教授がUNAMの概要説明を行い、山口宏樹学長より歓迎の挨拶、長沢誠准教授より本学の最近の研究活動と国際化について説明がありました。このフォーラムを通じて、人文社会と科学における今後の連携について両大学の理解を深めました。各教授らにより、最近の研究活動とともに、それらの学部・研究科の概要と共同プログラムについて紹介され、今後、両大学における共同研究の可能性を探るよい機会となりました。



Focus 19 「アクセプトされるための英語論文執筆ワークショップ」を開催

6月29日、本学研究機構 URA オフィスでは、西川マリ氏(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)を講師として「アクセプトされるための英語論文執筆ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、国際的な研究成果の発信に欠かせない英語論文において、より質の高い論文の執筆方法の修得を目的としたもので、教員、大学院生など23名が参加しました。ワークショップでは、「曖昧な表現を避け、明確かつ簡潔に記述する」など、日本人に特に必要な執筆上の留意点が述べられました。また、日本人が実際に執筆した論文を題材に、「論文の構成と適切な情報配置」について、グループワークを通じて理解を深めました。



Focus 20 ペルセウス銀河団に「静謐な」高温ガスを発見 JAXA・NASAなどと共同研究

大学院理工学研究科田代信教授と寺田幸功准教授の研究グループは、ミッション提案時から約10年にわたり、JAXAやNASA等と共同で、エックス線観測衛星「ひとみ(ASTRO-H)」に搭載した軟エックス線分光器SXSの信号処理部の開発や、搭載機器の解析ソフトウェアの構築等を行ってきました。今回の発見は、2016年2月に無事に軌道に投入された「ひとみ」衛星の初期観測の成果です。今回、観測対象としたペルセウス座銀河団は、標準的な銀河団の一つであり、中心にあるブラックホールの活動で、高温ガスは激しくかき混ぜられた乱流状態にあるとされてきました。今回の観測結果から、SXSの驚異的な分光能力の実証に加え、これまでの予想を大きく覆す静かな銀河団ガスが存在することがわかりました。【ひとみ(ASTRO-H) 衛星 (C) JAXA



Focus 21 大学院理工学研究科 高木優 教授が「Highly Cited Researchers」に選ばれる!

Highly Cited Researchersは、世界的な情報サービス企業であるトムソン・ロイター社が、科学研究の各分野において高い影響力を持つ科学者を論文の引用動向から分析し選出したもので、今回は全世界で約3,000人の科学者が選定されました。日本の研究機関に所属している研究者は約80名あり、高木教授は「Plant & Animal Science」分野(日本人研究者28名選出)において選出され、同社より証書が授与されました。



Event

埼玉大学連続市民講座 part7「埼玉の“いま”を知り、未来を考える」 埼玉大学 / 読売新聞さいたま支局【共催】

第1回 7月23日(土)
「よみがえる“宝蔵寺沼ムジナモ自生地”
 終了しました - ミクロの目で見たムジナモの生育 -

教育学部准教授
金子 康子

第2回 8月27日(土)

「さいたまトリエンナーレ 2016」
 - 市民参加による国際芸術祭の可能性 -
 終了しました

教育学部准教授
石上 城行
 【ゲスト】
 さいたまトリエンナーレディレクター
芹沢 高志氏
 さいたまトリエンナーレ
 サポーターコーディネーター
藤原 旅人氏

第3回 9月24日(土)

「共に生きる街を創る」
 - さいたま市ノーマライゼーション条例づくりから -

教育学部准教授
宗澤 忠雄

第4回 10月22日(土)

「インターネット上のデータから見た埼玉」
 - データベースとソフトウェアの活用を通して -

名誉教授
山下 勇一

第5回 11月19日(土)
「社会資本の老朽化と維持管理」

大学院人文社会科学研究科
 准教授
宮崎 雅人

第6回 12月17日(土)
「人口からみた埼玉の過去・現在・未来」

大学院人文社会科学研究科
 教授
中川 聡史

【時 間】各回 14:00～15:40 (開場 13:00)
 【会 場】埼玉大学全学講義棟 1号館 301 講義室
 【定 員】350名 (定員を超えた場合は別室にてモニター受講となります)
 【問合せ】埼玉大学広報渉外室
 Tel : 048-858-3927 Fax : 048-858-9057



ホームカミングデー 埼玉大学 / 埼玉大学同窓会【共催】

【日時】平成 28 年 10 月 29 日(土) 13:00-17:30 (予定)
 【会場】埼玉大学
 【内容】歓迎会、交流会、学部同窓会イベント

※内容詳細は、決まり次第、大学ホームページにてお知らせいたします。
 アドレス <http://www.saitama-u.ac.jp/graduate/hcd.html> から
 または、

多くのみなさまのご参加、
 お待ちしております

第67回 むつめ祭 秋の学園祭

【日時】平成 28 年 11 月 24 日(木) 12:00-20:00
 11 月 25 日(金)・26 日(土) 10:00-20:00
 【会場】埼玉大学 **みなさまのご来場をお待ちしております。**
 (開催時間は変更となる場合があります)



埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は、右図の2つを目的として平成25年11月に設立され、以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。
 趣旨にご賛同いただける方には詳しいご案内をお送りいたしますので、下記お問い合わせ先までご請求いただけますよう、お願い申し上げます。
 なお、埼玉大学基金ホームページの「手続きフォーム」からお申し込みいただくことも可能ですので、併せてご覧ください。

目的 1	特定重点事業の推進 埼玉大学国際学生寮(国際学生寮)新設事業	埼玉大学創立70周年(平成31年度)記念事業
目的 2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援	

古本募金「きしゃぼん」のご案内

不要となった本やDVDをお送りいただくことで、その査定額を埼玉大学基金にご寄附いただくことができます。
 5点以上であれば送料は無料です。皆さまからのご支援をお待ちしております。

○詳細は
 [埼玉大学基金ホームページ] の
 [埼玉大学古本募金]
 (<http://www.saitama-u.ac.jp/funds/kisyapon.html>) から。

◆埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐<http://www.saitama-u.ac.jp/funds/index.html>

